

6月10日(月)

言葉の力

今日の力

2024年6月10日～6月16日

翻訳 阿部 やよい

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は新改訳聖書第三版を使用しています
※翻訳者・編集以外でも協力して下さっている兄弟姉妹がいます

御茶の水キリストの教会

聖書朗読 ヤコブの手紙 3:1～12

同様に、舌も小さな器官ですが、大きなことを言って誇るのです。ご覧なさい。あのように小さい火があのような大きい森を燃やします。 ヤコブ 3:5

ほんの些細なことでもいいのです。例えば、走り書きした紙切れを子供から渡されたお母さんの目からは嬉し涙が溢れます。朝、夫から^{いたわ}りの一言を聞いた妻は、それだけでその1日頑張れます。

同じように、私たちの体の小さな器官である舌は、大きな喜びも、または恐ろしい破滅をも、もたらすことができるのです。厳しい言葉は森を燃やす火花に、残酷な言葉は毒が入った容器にたとえられるでしょう。

私たちは、誤った言葉で自ら引き起こしてしまう困難だけでなく、悪意のある言葉で周りの誰かを苦しめていないかも気にしなければなりません。愛する者にできるかぎりのことをしてあげたいと思っているだけで、私の言葉で彼らの世界に火をつけたいとは決して思っていない。

今、自分の言葉に耳を傾けてみませんか。私も私の言葉を聞いてみようと思います。なぜその言葉を選んだのか、どうして怒りの言葉を発したのか、どうしたら励ましの言葉を言えるのか、ぜひ考えてみましょう。整理し、教え、赦し、そして靈感を与えてくださる神様の御前で、私たちの言葉を選びましょう。

軽率に話をする人を見ただろう。

彼よりも愚かな者のほうが、まだ望みがある。 一箴言 29:20

讚美歌 II 80 み言葉をください

祈り 我が父よ、今日、自分の舌を制することができるよう、私の心を変えてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

編集者 スティーブン S・レムリー

6月11日(火)

御父をほめたたえます

聖書朗読 使徒の働き 4:13~21

私たちは、自分の見たこと、また聞いたことを、話さないわけにはいきません。

使徒 4:20

夕食前の祈りの後、4歳の女の子が考え込むように言いました。「私たちは神様にたくさん話しかけるけど、どうして私たちは神様についてもっと話さないの。」彼女の質問は、私たちの多くがドキッとする質問でした。それは、自分の神様への信仰が誠実であるかを試される質問でした。どうして私たちは神様についてもっと話さないのでしょうか。

私たちは、会話の中で相手を褒めることはあります。しかし、その場にはいない人を褒めるときの言葉の方が真実です。あなたがいないと思って、あなたのことを褒めている場に、うっかり居合わせたことはありませんか。子どもが友だちに、あなたがやさしいと言っているのを聞いたことはありませんか。もしくは、妻や夫が、あなたが眠っていると思って、愛のこもった言葉を言うのを聞いたことはありませんか。そういう時の言葉には非常に大きな意味があります。なぜなら、そういう時の言葉はお世辞や嘘ではないはずですから。

神様が聞いていらっしゃるとは思わずに、ごく自然に、誰かに神様の素晴らしさを伝えたときこそ、神様を特別に褒め称えたことになると言えるでしょうか。

ああ、私は、何度目覚めても、主を忘れていたことに気づくだろう!

しかし、主は私をお忘れになることはない。

主が日々、私を目覚めさせてくださるのだ。

—ジョージ・マクドナルド*

(*編注:スコットランドの小説家、詩人、聖職者。1824-1905)

讃美歌 447 勇めや はらから

祈り 親愛なるお父様、今日、あなた様の存在をもっと感じ、私たちがあなたの御業をほめたたえ、あなたの愛によって生きていることを周りの人に聞いてほしいです。どうか私たちを助けください。イエスの御名により、前によって。アーメン。

編集者 エミリー Y・レムリー

6月12日(水)

置かれた場所で咲きなさい

聖書朗読 創世記 39:1~23

神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

ローマ 8:28

“置かれた場所で咲きなさい”という言葉をつぶし聞いたことがあるでしょう。でも、特にクリスチャンにとって、この言葉が表す意味をご存じですか。すべてを統治しておられる主は、私たちの一生の間に、私たちが望んでいない環境に私たちを置かれることがあります。どのような状況でも、私たちはその置かれた場所でのようにふるまうか、神様を信じてベストを尽くし成長し現状を打破していくか、もしくは、不満を言い、神様から顔をそむけ、自分の望む場所に置かれることを求め続けるか、決断しなければなりません。

創世記39章で、兄たちによってミデヤン人の商人に奴隷として売られたヨセフは、その時17歳で、エジプトでパロの廷臣ポティファルに仕えていました。もちろん、これはヨセフが思い描き計画していたものではありませんでした。しかし、ヨセフのふるまいは困難な状況に左右されることはありませんでした。

神様から逃げるわけでも、神様を呪うわけでもなく、ヨセフは主を信じ、信仰を捨てず、懸命に働き、神様がこの場所で彼に教えようとされていることを学びました。主はヨセフとともにおられ、試練に直面するたびに、彼を成功させてくださり、出世の階段を上らせてくださいました。ヨセフは置かれたところで咲いたのです。

讃美歌 291 主にまかせよ

祈り 親愛なる主、私たちがヨセフのように、あなた様が私たちが今の場所に置いているのには理由があるのだと信じるのができますように。そしてたとえ今は理解できなくとも、あなた様が私たちの人生において、私たちの益となるように働いてくださっていると信じるのができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 グランベリー / ジャン・ノックス

6月13日(木)

恐れを乗り越える信仰

聖書朗読 創世記 50:15~21

「恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、生きている者である。

黙示録 1:17~18

恐れを感じるのは自然なことではないでしょうか。人間である私は、自分の弱さを知っています。日々ふりかかる自身の信仰が試される試練を前に、私たちは恐怖を感じます。この恐怖の中、私たちは信仰を持ち続けることができるでしょうか。

ライオンを目の前にしたとき、ダニエルは恐怖におののかなかったのでしょうか。当然、怖かったです。しかし、揺るぎない信仰によって救われたのです。

ダビデは語りました。『神にあって、私はみことばを、ほめたたえます。私は神に信頼し、何も恐れませんが、私に何をなしえましょう。』(詩 56:4) また詩篇 121:7~8に、『主は、すべてのわざわいから、あなたを守り、あなたのいのちを守られる…今よりとこしえまでも守られる。』とあります。このことを私たちは忘れないでいたいと思います。

ヨセフは彼が経験した試練を振り返り、『恐れることはありません。どうして、私が神の代わりでしょうか。あなたがたは、私に悪を計りましたが、神はそれを、良きことのための計らいとなさいました。』(創 50:20) と言って、兄弟たちを安心させました。ヨセフは信仰をもって多くの恐怖を乗り越え、今度は兄弟たちを安心させることができたのです。

私は、自分が強い不安を感じた時、神様は、ヨセフやダビデやダニエルと共におられたように、常に私と共におられると思うと、心が安らぎます。神様はこの広大な天と地を造られたお方ですが、私のことを、私の恐怖も知っておられます。とてつもなく大きな障害に囲まれたとしても、私の希望と信仰はイエス様に留まります。イエス様は決して私の苦しみを見過ごされません。神様がおられれば、今日も私の中には希望が湧きます。

讚美歌 286 神は わがちから

祈り お父様、あなた様は私たちが弱っているときの力であり、苦しむときの助けです。私の恐怖すべてをあなた様に委ねることができますように。私を決して離さず、すべての恐れに打ち勝ってくださったことに感謝いたします。イエス様のお名前によって。アーメン。

フロリダ州 デスティン / サラ・クラーク

6月14日(金)

唯一無二の神

聖書朗読 出エジプト記 7:1~7

聖書はパロに、「わたしがあなたを立てたのは、あなたにおいてわたしの力を示し、わたしの名を全世界に告げ知らせるためである」と言っています。

ローマ 9:17

神様がパロとエジプトの上にわざわいを下すことにされた決断の裏にある意義を考えてみたことはありますか。なぜ神様は、ただパロにイスラエルの民を解放させなかったのでしょうか。神様が下された災いの一つ一つが、エジプト人が崇拜していた神々と対決するものでした。これらの災いを通して、神様は、真の神を知り受け入れることは、エジプト人たちを自縛から解放することになると、彼らに教えようとされたのです。彼らは“生ける神”の力を彼ら自身の目で目撃したのです。

今日、私たちに生きよと語られる神様は、私たちが造った偶像に挑んでおられます。神様は人の心を知っておられ、私たちがお金や人や物を崇拜しないよう戦っていることも知っておられます。神様の偶像に対する姿勢は揺るぎないものですが、私たちに対して計り知れないほどの忍耐を示してくださっています。神様は私たちにとっての偶像を明らかにし、私たちの人生を正して、私たちが神様だけを崇拜するようにと、私たちの心を導くことがおできになります。神様だけが私のいのちの神、揺るぎない土台、永遠の希望であるようにと、せつに祈り続けます。

あなたが神の前に諦められないものがあるのなら、それは偶像である。

神の栄光を求めるよりも熱心に求めるものがあるのなら、それは偶像である。

主に立ち返るといことはあらゆる偶像から離れるということである。

—チャールズ・スポルジョン*

(*編注:イギリスの著名なバプテスト派の牧師、伝道者、説教者。1834-1892)

讚美歌 II 161 輝く日を仰ぐとき (聖歌 480)

祈り 主よ、あなた様が私たちの唯一無二の神です。そのことを忘れないよう日々お助けください。自分で作ったすべての偶像から解放してください。イエス様のお名前によって。アーメン。

カリフォルニア州 サクラメント / トーニャ ロバーツ

